

第12回 関西小学生大会・大阪府大会 中央大会

日時 2 / 5 場所 なみはやG

天候 晴れ ピッチコンディション

南山本Jr U-11 VS 伏山台FC

スコア 2 - 0

得点 長野 永井

学年	背番号	ポジション	名前
5	1	GK	文能
5	2	DF	福廣
5	3	DF	佐川
5	4	MF	保田
5	5	MF	山本
5	6	MF	田中
5	7	DF	塩湯
5	8	MF	西
5	9	MF	長野
5	10	FW	永井
5	11	FW	大久保
5	12	DF	石田
5	13	FW	竹本
5	14	MF	井添
5	15	MF	伊谷
5	16	MF	高松
4	17	MF	田島
4	18	MF	中條
3	19	MF	合田

戦況分析

伏山台FC

左サイドを中心の展開、トップに当てて落として
クロスという攻撃が多かった。

南山本Jr U-11

前半は、南山本ペース。積極的なアプローチで、
相手に考えさせる余裕を与えたかった。 ゴール
前からの混戦から、長野がゴールを奪う。その後
も、サイドから崩すも相手GKの好セーブもあり、
追加点が奪えない状況が続く。後半半ば、南山本
のディフェンスが若干遅れ始める、左サイドから攻
められ、相手チームに決定的なチャンスを与える
が、相手も決めきれなかった。 後半ラスト1分、
山本のスルーパスに永井が反応して得点。2 - 0
でBEST8を決める。 2点目は、パスの質、シュ
ートのタイミング、コース完璧のゴールでした。

南山本Jr U-11 VS セレッソ大阪U-12

スコア 0 - 1

戦況分析

セレッソ大阪U-12

各個人の技術・判断・冷静さ、どれもが大阪TOP
クラス。

南山本Jr U-11

セレッソにポゼッションされることは、充分予測でき
たので、インターセプトを狙うことを選手に意識づけ
て、選手を送り出した。選手達は、すばらしい集中
力を見せてくれた。比較的セレッソのボールポゼッ
ションは、予測しやすいものだったので、インターセ
プトでき、前後半を通してペナルティーエリアにほと
んど入り込ませなかった。一度、ロングボール
を逆サイドまで送られた時、南山本DFとGKのポジ
ションがずれてしまったところを、ミドルレンジから
シュートされ失点。南山本は中盤での攻防から
抜け出すシーンは何度かあったが、攻撃に厚み
がなく、FWの1対1で勝つか負けるかというので
限界でした。ラスト、4連続コーナーキックのチャン
スがあるも、ものにできずタイムアップ。今大会は
BEST8で幕を閉じる。

第12回 関西小学生大会・大阪府大会

【総評】

1年前から、この大会を目標にトレーニングしてきました。今大会にBEST4に入っている2チームとの対戦で大敗した頃が始まりだったと思います。当時は、何事も与えられることができた感覚の選手達でした。自分達で主体的に考えることのできないことが最大の課題であり、これを改善することが、それからの1年だったように思います。彼らにトレーニング・ゲームで指導する内容の中に、サッカーのテクニカルな部分は、少なかったように思います。いろいろな取り組みを進めました。自分の現状を知り、自分で具体的に行動することができたかなと思えるようになったのは、地区予選直前でした。この大会には、勝つことで子供達の成長にいろいろな影響があることを知っていましたし、何とか長くこの大会に参加してみたいというのがコーチ陣の想いでした。彼らのこの大会にかける想いは、言いつづけた甲斐もあり、地区のどのチームよりも強かったように思います。地区予選を突破し、中央大会。一進一退の攻防を繰り広げる中、さまざまな変化が見えてきました。

【FWメンバー】受身の発想が多い選手達でしたが、積極的に自分からボールを受ける動きや、奪いにいく動きがでてきました。地区ではトップクラスの攻撃のできるFWに成長できました。

【MFメンバー】サイドからの攻撃が課題でしたが、サイドのスペースを使うことができるようになりました。今後は、中央大会のレベルのプレスに対してもしっかりキープできるような技術・判断を磨くことが必要です。

【DFメンバー】積極的なアプローチからインターセプト、ボールを奪うことができました。雄介のキャプテンシーもすばらしいものになりました。地区ではトップクラスの、技術をもつDF陣に成長できたと思います。

【GK】すばらしいコーチングでした。これからは、ゲームの流れを見て、何が必要かみんなに伝達できる選手になって欲しいと思います。

何と言っても、彼らの成長はセレッソU-12との対戦で表現されたと思います。スタッフと以前から話をしていましたが、応援している周囲の人たちに感動してもらえるサッカーを子供達に体験させたいと思っていました。私も、一、二度しか味わったことがありません。その境地にもう一度というのが、それからのモチベーションでした。ゲーム中、選手達は今までに見たことがないくらい必死で、それでいて集中力高く心をコントロールできていました。タイムアップ後の彼らの涙を見て、「また味わうことができた」という感覚が残りました。本当に選手達に感謝したいと思います。ありがとう。

ただ、これで満足するわけにはいきません。残り1年でまた、この感覚を味わうために、しっかりやっていかないといけないことがたくさん見つかりました。セレッソとの一戦。善戦したとは言えますが、セレッソの選手達の技術・心の安定を崩すことは全くできなかったというのが正直なところです。一度もリスクをかけて、攻撃してくることなく、あたかもトレーニングマッチのように自分達のサッカーをして、取れるところで取ったというような内容でした。

まだまだ、1対1においての差が大きいです。「心・技・体」の3つを今後磨いていく必要があります。

また、ゼロからのスタートです。技術アップのためのサッカーに切り替えます。みんなレベルアップしていますので、誰が全日本サッカー大会のメンバーに入るか正直わかりません。もう次への準備が始まっています。この大会に費やした分、全日への準備が遅れているとも言えます。新しい目標に向けて頑張っていきましょう。